



徳島市民病院だより



徳島市民病院の理念

「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院
Tel(088)622-5121(代表)

22号

令和2年4月

事業管理者就任のご挨拶



安井 夏生

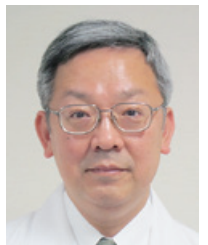
教授定年の二年前から五年間、病院長を勤めさせていただきまされたので、徳島大学を退職したのは六十八歳の時です。自由の身となり、高齢者を相手に気楽な診療活動を行なっていました。ある日「人生百歳まで現役じゃ」との天の声があり、本職をお引受けすることとなりました。

先生方におかれましては、日頃から徳島市民病院の運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。私は曾根三郎氏の後任として令和二年四月一日に徳島市民病院事業管理者に就任いたしました安井夏生と申します。曾根氏とは同級生であり、古希を越えた仲間ではございますが、幸い健康には恵まれております。徳島市民病院が地域の中核病院として、市民の皆様のさらなる信頼を得ることができましよう、これから4年間、全力を尽くす所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の学生時代は徳島大学剣道部医学科に所属し、連日稽古に明け暮れておりました。勉強は得意ではありませんでしたが、手先が器用であったため整形外科を選択しました。生まれが大阪だったこともあり、卒業すぐに大阪大学の整形外科に入局いたしました。さすがに大阪大学は懐が深く、他学出身者の悲哀を味わうことはほとんどありませんでした。平成十三年一月に母校の整形外科に教授として戻って参りました。徳島を飛び出したはずの私を母校は温かく受け入れてくれました。

社会の少子化、高齢化が進む中で「徳島県地域医療構想」が示され、病院機能の分化・役割分担・連携が求められるようになりました。徳島市民病院では「地域周産期母子医療センター」「関節治療センター」「がんセンター」を三本の柱と位置付け、それぞれの分野の専門医が最先端の医療を提供できる体制をとっております。また医師会と連携して救急医療、災害医療にも積極的に取り組むと同時に、徳島大学との連携で臨床研修病院として人材育成にも寄与しております。

最近、医師の長時間労働の実態を受け「医師・医療従事者の働き方改革」が求められております。徳島市民病院でもこの問題に積極的に取り組み改善してゆかなければなりません。その一方でこれまで以上に収益の確保と経営の効率化が求められ、医療を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。私には取り組むべき課題が多すぎて多少戸惑っておりますが、あくまで謙虚に、かつ誠意をもって問題解決に努力いたしますので、先生方のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。



田村 公一

7年が経過しました。その間、臨床教育センター長として医学生や研修医の対応にあたりてきました。そのほか臨床工学室長の兼務、徳島市民病院医学雑誌と病院の年報の編集を行ってきました。徳島市民病院が目指す医療を実施していく上で、徳島大学および大学病院との連携は欠かすことができません。また新たな力となる医療人を育成していく上で当院が「教育・研修機関」としての役割を果たし、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。(副院長兼耳鼻咽喉科総括部長・臨床工学室長)

副院長就任にあたり

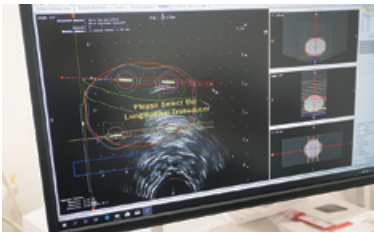


中野 俊次

理想的な徳島市民病院とは、地域の方々や連携医の先生方から信頼される公的中核病院だと思えます。病院ではチームワーク医療が根本であり、効率よく稼働するためには楽しく働きやすい職場環境作りが最も重要です。また、成績の良い、安心安全な治療を提供できるように、高い志と責任をもって医療連携をさらに推進させることが大切です。このような認識を多くの職員と共有することが、市民病院の発展に繋がります。地域医療に貢献できると思います。私自身も、整形外科部門のみならず病院全体、地域医療の発展に寄与したいので、よろしくお願ひいたします。(副院長兼整形外科総括部長・関節治療センター長)

TMH
最新医療

がん



手術室の福森医師。事前の解析で線源配置計画を作成、ディスプレイで確認しながら線源留置を実施

小線源療法開始



前立腺がん治療、少ない副作用

当院は転移のない限局性前立腺がんに対して密封小線源療法（ヨウ素125線源の留置）を開始しました。前立腺がん治療は、手術、放射線治療、監視療法（PSA値の定期的検出）が3本柱。小線源療法は前立腺の中に留置した線源からがん細胞を照射、死滅させる治療です。外照射と比べ前立腺内の照射に充分なエネルギー量にとどまるため、周囲への放射量が少なく、直腸や膀胱での放射線障害の可能性が低い（副作用が少ない）のが、治療の大きな利点です。尿失禁が少なく、性機能は維持されやすい、また治療入院も3泊と短期間ですむ特徴があります。

治療は福森知治・泌尿器科総括部長ら泌尿器科医師と放射線科専門医、看護師、放射線技師、臨床工学技士のチームで担当します。福森総括部長は、前立腺がん治療が専門で、徳島大学病院在籍中の2004年に小線源療法を立ち上げ、2012年からダヴィンチによるロボット支援

手術にも携わってきました。

今後、小線源単独治療のみならず、小線源に放射線外照射、ホルモン療法を加えたトリモダリティー療法も可能になります。トリモダリティー療法はPSA非再発率が高く、PSA値やグリンスコアの高い高リスクがんに対して有効な治療として、選択できます。手術（前立腺全摘）が適当なケースでは大学病院との連携医療で実施することになります。

小線源治療にあたっては、3、4週間前に治療のためのプランニング（照射計画づくり）を行います。経直腸エコーで前立腺の形態を解析。このデータをもとに線源の配置、線源使用数を決定します。患者さんは10F病棟に入院し、治療当日は4F手術室で腰椎麻酔を行ってからの同フロアーの小線源治療室で線源を挿入します。治療時間は1時間半程度です。

1月末から2月中、放射線シールド工事、床シート張り替え、照明LED化など施設改修を行い、3月初めには関連部署医師、看護師ら合同で治療シミュレーションを実施。17日に最初の患者さんのプランニングを行い、4月14日から小線源治療が開始しました。

感染防止、連携医療機関へお願い

新型コロナウイルスの感染防止のため、当院では来院の方全ての検温を行い、また入院患者への面会は原則禁止しています。つきましては、「COVID-19についての相談・受診の目安」に該当される患者さんは、ご紹介の前に最寄りの保健所にご相談ください。また、発熱、嗅覚・味覚異常、新型コロナウイルス感染症疑いの患者さんについては、受診の前に必ず当院にご一報ください。院内感染を防止するための措置ですので、ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

COVID-19相談・受診の目安

息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状がある場合、重症化しやすい方。また、発熱や咳など風邪の症状が続く場合等。



内科診察室増設、7診体制に



▲増設した内科6診（右）、7診



当院内科は4月から診察室を2室増やし、7診体制で外来診療を行っています。内科は血液内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、糖尿病・代謝内科の専門医が、最新の医療情報・手技を取り入れ、外科・放射線科、他科とも連携して総合的、質の高い医療を提供します。今年度から総合診療外来を新設、前副院長の渡辺滋夫医師が7診で診察を行います。

内科はこれまで診察室が不足、手狭となっております。昨年度、

医師を増員したこともあり、診察室を増やして診療態勢を充実させることにしました。今年度、内科は医師20名体制。外来診療は上記外来に加え、禁煙外来、女性外来を設けています（いずれも予約制）。曜日ごとの診察担当は病院ホームページをご参照ください。

診察室増設にあたって、2階内科外来に隣接する超音波検査室を移設し、そのあとに内科6診、7診の診察室を設けました。1月から天井・壁の解体、パーテーション設置など改修を進め、診療準備を整えました。

超音波検査は心電図、肺機能検査など行う生理検査室へ移しました。昨年11月、生理検査室のパーテーション撤去、機器移設を終え、ワンフロアの検査室として稼働しています。

RST (呼吸サポートチーム)



患者さんの呼吸管理を支援

RST (Respiration Support Team) は、人工呼吸器を装着する患者の呼吸管理を支援する「呼吸サポートチーム」です。当院では2014年に呼吸器内科・外科医師、麻酔科医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士などの多職種で発足しました。発足にあたりメンバーが呼吸療法認定士の資格を取得し、呼吸ケアワーキングを呼びかけて、看護師基準・人工呼吸器マニュアルの作成、看護チェックシートの見直し、口腔ケアの手の確認や伝達に取り組みました。

人工呼吸器を装着していることは、集中治療の患者管理において重要なウエイトを占めます。機器の進化に伴い人工呼吸器の管理方法も変化し、また人工呼吸器を装着することにより苦痛を伴い、人工呼吸器関連肺炎(VAP)といったリ

スクもあります。こうしたことからRSTは、院内の呼吸ケアに関する標準化及び人工呼吸器の早期離脱、ケアの質の向上を図ることを目的にしています。

主な活動の一つがチームラウンド。患者の状態を把握し適切な支援を行うこと、スタッフの相談に乗ることでケアへの負担感を軽減する目的で実施しています。活動のもう一つは教育・啓蒙で、チーム定例会・勉強会を月1回開くとともに、定期的に職員向けの呼吸ケア勉強会も開催しています。

当初は、装着から48時間以上経過して人工呼吸器を装着している患者がラウンドの対象でしたが、昨年春より、装着初期のトラブルを軽減すべく、装着開始時からラウンドの対象となっております。

2019年度のラウンド対象患者は13名で、ラウンド回数は41回に及びました。人工呼吸器装着の早期に多職種で活発な意見交換をすることで、よりその患者にあったケアができると考えられます。

今年度のメンバーは長谷加容子委員長(呼吸器内科)以下、20名です。現在は新型コロナウイルス患者への対応について頻繁に話し合いを行っています。該当患者が人工呼吸器を装着した場合の設定のマニュアル作成や、看護師全体で呼吸器患者のケアが行っていきけるよう、さらに勉強会を増やし、備えている状況です。

RSTの活動は多職種間の連携なくしては成り立たないので、スタッフの方々のより一層のご協力をお願いしたいと思います。(服部真美)

当院は4月1日付で医師8名を採用、臨床研修医2名を含めて新しい医師10名が着任しました。採用は岡崎潤（内科主任医長）、近清素也（外科主任医長）、近清素也（外科主任医長）、近清素也（外科主任医長）▽後藤仁（整形外科主任医長）▽千田いづみ（耳鼻咽喉科主任医長）▽瀬戸公介（泌尿器科主任医長）▽竹原恵美（外科医師）▽片山幸子（産婦人科医師）▽篠原光治（麻酔科医師）です。また、各診療科を担う診療部長に5名が昇格。徳島市民病院は連携医のみならずと力を合わせ、患者さん一人一人に寄り添う、安心・安全の医療を届けられるよう、努めてまいります。ご支援のほどよろしくお願い致します。

療科を担う診療部長に5名が昇格。徳島市民病院は連携医のみならずと力を合わせ、患者さん一人一人に寄り添う、安心・安全の医療を届けられるよう、努めてまいります。ご支援のほどよろしくお願い致します。

療科を担う診療部長に5名が昇格。徳島市民病院は連携医のみならずと力を合わせ、患者さん一人一人に寄り添う、安心・安全の医療を届けられるよう、努めてまいります。ご支援のほどよろしくお願い致します。

新診療部長 ご紹介



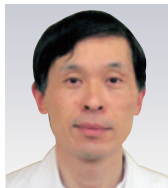
内科
岡崎 潤
【専門分野】
循環器内科



内科
福野 天
消化器内科



脳神経外科
宇山 慎一
脳神経外科全般



整形外科
中村 勝
関節疾患



救急室
外科
井川 浩一
消化器外科

新任医師 ご紹介



内科主任医長
岡崎 潤
【専門分野】
消化器内科



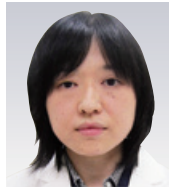
外科主任医長
近清 素也
消化器外科
一般外科



外科医師
竹原 恵美
一般外科



整形外科主任医長
後藤 仁
関節外科・整形外科一般



産婦人科医師
片山 幸子
産婦人科



耳鼻咽喉科主任医長
千田いづみ
耳鼻咽喉科・頭頸部外科、
小児難聴



泌尿器科主任医長
瀬戸 公介
泌尿器科一般・透析



麻酔科医師
篠原 光治
麻酔内科



臨床研修医
吉田 結理
2年次（AWA すだち）



臨床研修医
村山 美咲
1年次（AWA すだち）

リニューアル 研修医日記

臨床研修2年目 白石真理子

研修医2年目になる、白石真理子と申します。出身は愛知県みよし市で、大学から徳島に参りました。大学ではサッカー部のマネージャー、FLS（英会話サークル）、TALS（ICLS・ACLS勉強会）、TICO YOUTH（国際協力サークル）などで活動してきました。特にサッカー部のマネージャーとしては、西医学・全医学優勝や天皇杯本戦出場など貴重な経験ができ、サポートし続けたことにとっても幸せを感じる事ができました。幼少期3年くらいと、高校時代1年



間の留学でイギリスに住んでいたこともあります。そのおかげで英語はペラペラとまではいきませんが少し得意なので、今後も勉強し続けて診療現場等でも生かせたらと思っています。

あっという間に初期臨床研修医としての1年間が終わってしまい、気

づけば私達も2年目となります。1、2か月毎に様々な科で研修をさせていただき、指導医の先生と一緒に日当直もさせていただいて、たくさんの勉強の機会を与えられてきました。その中でどれだけのことを吸収できたかは自分でも測りかねますが、少なくとも去年の4月の何もわからない状態だった時に比べれば、いろいろな可能性を考えて動く力も身に付き、責任感を持って仕事に臨めるようになったと感じています。あと1年もする頃には専攻する科も決めなければなりません。残りの期間で意思を固めていこうと思います。そして今後いつまでも患者さんのことを考えた医療ができるように、今の一日一日の研修を大事に、学びを深めつつ過ごしていきたいです。